

行政視察等報告書

令和元年8月19日

米子市議会議長様

会派名 政英会
代表者氏名 尾 沢 三 夫
提出者氏名 三 嶋 秀 文



下記のとおり報告します。

記

項 目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input checked="" type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参 加 者	稲田 清、岩崎康朗、奥岩浩基、岡田啓介、尾沢三夫、 門脇一男、田村謙介、戸田隆次、三嶋秀文、渡辺穰爾
期 日	令和元年8月5日から令和元年8月7日まで
〔概 要〕（年月日・場所・内容） 8月5日 兵庫県西宮市「コミュニティ交通支援事業について」 8月6日 香川県高松市「地域公共交通再編事業について」 8月7日 岡山県岡山市「出石小学校跡地整備事業について」	
〔所 感〕 別紙のとおり	
経 費	旅費総額 558,308円

米子市議会 会派政英会行政視察（西宮市）報告書

- 1) 視察日 令和元年8月5日（月）
- 2) 視察先 兵庫県西宮市役所
- 3) 視察項目 西宮市コミュニティ交通支援事業について
- 4) 視察内容
 - ① 西宮市は全体的に公共交通もJR、阪急電車、阪神電車を中心にバス、タクシーなど発展しているが、コミュニティ交通支援対象の生瀬地区のみ、高台にあり、昭和40年以降の住宅地で高齢化が進んでいる現状から「産学官民の連携・協働による、地域にふさわしい、住民目線で身の丈に合った持続可能なおでかけ交通『ぐるっと生瀬』の運行とまちづくり」に着手された。
 - ② 生瀬地区の概況、これまでの取り組み、コミュニティ交通導入の流れ、持続可能な運航に向けた事業目標と利用推進計画について、及び、利用促進に関する取り組みと今後の課題について最初に説明を受けた。
 - ③ 公共交通不便地域として、国の補助要件は最寄りの駅から1km離れていないと認められないが、西宮市は都心部から離れて高低差も激しいため特別に認められた経緯がある。
 - ④ 視察の感想としては、西宮市は都会で交通不便を感じられないとの印象であったが、中国自動車道名塩周辺がまさに生瀬地区であり、山間部で交通不便、高齢者にとってはバス停までも大変であった。コミュニティ交通が整備されてからは生瀬地区から宝塚市への乗り合いバスで目的は達成され、乗車率も好調で持続可能な事業であることがわかった。また、乗車料金は通常バスで200円のところ、本コミュニティ交通は300円であり、割高だが高齢者にとっては利便性において、重要との判断があるようだ。

高松市における地域公共交通再編事業について

本市においては、県西部地域の9市町村（米子市、境港市、日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町）と鳥取県との共同で、持続可能な公共交通網の形成に向けたマスタープランとなる「鳥取県西部地域公共交通網形成計画」を平成28年3月に策定するとともに、現在、今後の交通政策における取組みの方向性を示す「米子市公共交通ビジョン」の策定を目指し、公共交通の利便性向上を重点課題と位置付け、その取組みを進めているところである。そこで、今後の人口減少社会、高齢化社会が見込まれる中、「コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり」による総合的な交通体系の再構築を進め、従来の車社会から公共交通機関等による移動への切り替えを推進している「高松モデル」を標榜する香川県高松市において、本市の将来の公共交通の在り方の参考を得るため、先進地視察を行った。

高松市における公共交通ネットワーク再構築に向けたポイントは、①民間運行事業者との合意形成、②将来に向けての財政負担、③現行スキームの課題、④現行制度上の課題、⑤利用促進施策の展開の5点を検討することに集約されていた。現状、多くのバス系統が中心部まで運行しているため、鉄道及びバスと平行して運行する区間も多く、かつ、運行距離が長いという課題から、このまま将来を迎えると鉄道・バスともに利用者数が減少すること、利用者が少ない傾向にある郊外部からサービスが低下し、更には廃線になる可能性があることを根底に、その解決策として、①鉄道を公共交通幹線軸と位置付け、平行するバス路線区間を見直し、郊外部と公共交通結節拠点間をフィーダー路線化する、②バス路線空白地域や郊外部拠点施設へのアクセスを確保するため、かかる地域・施設と公共交通結節拠点を經由する循環系統を運行させる、③都心地域内の回遊性を向上させるため、都心地域内の主要施設・拠点を有機的に連絡する循環系統を強化する等を中心に、将来に向けた公共交通ネットワークの再構築を進めていた。

高松モデルの特徴は、特に、市が進めるまちづくりと密接に関わっている点にあった。鉄道を基軸としたバス路線の再編によって持続可能な公共交通ネットワークを再構築し、集約されたまちを公共交通で繋ぐ「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方、そして、各視点において持続可能なモデルとしての実効性を高めるため行政と事業者とが連携して計画を策定し、施策を展開する手法は、本市のこれからの公共交通体系を考える上で大変参考となった。

岡山市行政視察報告

1. 視察日時 令和元年8月7日 午前10時より午前12時まで
2. 視察場所 出石小学校跡地
(岡山市役所にて座学後に跡地視察)
3. 視察項目 「出石小学校跡地整備事業について」
4. 岡山市について 人口 719,474人(米子市の約5倍)
面積 789.91平方キロメートル(米子市の約6倍)
5. 出石小学校跡地整備事業の経緯
 - ・大正3年 岡山市立出石小学校 開校
 - ・平成12年 「中心部の新しい学校づくり基本計画」(統廃合)発表
(4校を2校へ、その後2校を1校へ統廃合)
 - ・平成13年 地元10団体が連名で跡地活用について市長・議長に要望書提出
 - ・平成14年 出石小学校閉校
 - ・平成15年 出石小学校跡地整備の実施方針公表
プロポーザル募集要項公表
 - ・平成16年 優先交渉者の決定
 - ・平成17年 定期借地権設定契約締結
 - ・平成20年 竣工
6. 出石小学校統廃合の背景
 - ・出石地区の長期的な人口減少(都市部のドーナツ化減少)
 - ・人口減少による児童数の減少
昭和10年 2002人 ⇒ 平成14年(閉校時) 69人
7. 定期借地権を設定した主な背景
 - ・中心部の貴重な土地。行政で確保する必要がある
 - ・市の財政負担なく政策意図を反映した事業が可能
 - ・固定資産税・賃料収入も見込める
 - ・ある程度事業のコントロールが可能
 - ・民間は初期投資を抑えて事業ができる
 - ・将来土地返却後は、社会情勢に応じた新事業が可能 等
8. 事業概要
 - ・事業実施区域 13,559㎡
 - ・定期借地権設定区域 9,412.39㎡

- ・借地権設定期間 54年間（一般定期借地）
- ・当初賃料 25,678,000円（3年毎に改定）

9. 跡地施設概要

- ・定期借地権付分譲マンション 66戸
- ・賃貸マンション 74戸
- ・屋上庭園付立体駐車場 178台
- ・介護付有料老人ホーム 54室
- ・スポーツクラブ
- ・コミュニティ施設
- ・公園

10. 所感・考察

岡山市立出石小学校は岡山駅前の中心市街地に位置し、古くから広域的商業・業務・交流拠点機能の集積地として発展してきた。しかしながら、昭和30年をピークに出石地区の人口は減少に転じ、その後も長期的な人口減少が見込まれる事等から平成12年に「中心部の新しい学校づくり基本計画」が発表され、当時中心市街地にあった内山下・深柢・弘西・南方の4校が2校へ、その後新しい2校が1校へ統廃合された。統廃合計画発表当時は当該地区の人口のドーナツ化減少が進み、出石地区の地元住民からも小学校の統合を求める声や、一方で古くから地域の活動拠点にもなっていた背景もあり、その後の跡地活用についての意見などがあつた。基本計画発表後の翌年に地元各種団体より跡地活用について要望書が提出され、その後、地元要望・中心市街地の活用観点の観点等から中心市街地の貴重な土地は行政で確保する必要性等から定期借地権を設定した公募型プロポーザル方式が採用された。審査委員会では3回のヒアリングを行い優先交事業者が決定し、施工3年撤去1年を含む一般定期借地権54年間を設定した事業が開始となった。跡地には、分譲マンション賃貸マンションをはじめ、駐車場、介護付有料老人ホーム、スポーツクラブ、コミュニティ施設に公園が整備され、出石小学校が新たな地域の活動拠点として生まれ変わった。岡山市では年に1回モニタリングを行っており、出石小学校の跡地活用事業後10余年が経った現在、マンション・高齢者施設は満室状態が続き、スポーツクラブは年間利用者数が開所初年度の約3倍の約28万6千人、駐車場年間延べ利用台数も165,000台から195,000台へと増加しており、事業以前にも増して地域の活動拠点として活用されている事が伺えた。

米子市においても公共施設等管理計画の中で将来の人口減少と財政難が見通される中、公共建築物の施設総量の抑制が掲げられている。教育施設は対象施設として検討事項にはないものの、出石小学校の事例は本市において今後の公共建築物等の跡地活用について大いに参考にすべきものであると感じた。

行政視察行程（会派：政英会 稲田 清、岩崎康朗、奥岩浩基、岡田啓介、尾沢三夫、門脇一男、田村謙介、戸田隆次、三嶋秀文、渡辺穰爾 10名）

月 日	行 程	宿 泊 先
8/5 (月)	<p>8:25 伯耆大山駅 岡山駅 新神戸駅 神戸市営地下鉄西神 JR 特急やくも8号 JR 新幹線のぞみ16号 徒歩</p> <p>10:35 岡山駅 11:25 11:41 11:43 三宮駅 神戸三宮駅 阪神本線直通特急</p> <p>12:15 西宮駅</p> <p>西宮市行政視察 午後2時00分から午後4時00分まで 【議会事務局】 ☎0798-35-3373</p> <p>【調査項目】 コミュニティ交通支援事業について</p> <p>16:17 西宮駅 神戸三宮駅 阪神本線・高速神戸行</p>	<p>ダイワロイネット ホテル神戸三宮 ☎078-291-4055</p>
8/6 (火)	<p>10:30 三宮駅 新神戸駅 神戸市営地下鉄西神 JR 新幹線のぞみ15号 JR 快速マリンライナー27号</p> <p>11:23 11:42 12:35 岡山駅 高松駅</p> <p>高松市行政視察 午後2時00分から午後3時30分まで 【議会事務局】 ☎087-839-2808</p> <p>【調査項目】 地域公共交通再編事業について</p> <p>16:10 高松駅 岡山駅 JR 快速マリンライナー46号</p>	<p>ホテルグランヴィア 岡山 ☎086-234-7000</p>
8/7 (水)	<p>岡山市行政視察 午前10時00分から午後0時00分まで 【議会事務局】 ☎086-803-1528</p> <p>【調査項目】 出石小学校跡地整備事業について</p> <p>15:04 岡山駅 伯耆大山駅 JR 特急やくも17号</p>	

旅費計算表

令和元年8月5日～令和元年8月7日(2泊3日)

月日	区間	鉄道路線名	区キ	間数	目的地での区数	運賃	グリーン	急行料		泊料	
								別	金		
8/5	伯耆大山駅～岡山駅	JR	154.3			8,350	岡山往復割	議員1,500円	甲 14,800円	乙 13,300円	
(月)	～新神戸駅	JR	143.4			2,590		随員1,100円	10,900円	9,800円	
	～三宮駅	市営	1.3			210					
8/6	神戸三宮駅～西宮駅	阪神		14.5		270					
(火)	～神戸三宮駅	阪神		14.5		270					
	三宮駅～新神戸駅	市営		1.3		210					
	～岡山駅	JR		143.4		3,860					
	～高松駅	JR		71.8							
	高松駅～岡山駅	JR		71.8		1,510					
8/7	岡山駅～伯耆大山駅	JR	154.3								
(水)											
計	議員 旅費				54,890	17,270		0	7,220	12,600	13,300
	随員 旅費				0						

出席 議員 稲田 清、岩崎康朗、奥岩浩基、岡田啓介、尾沢三夫、門脇一男、田村謙介、戸田隆次、三嶋秀文、渡辺稜爾

議員旅費 54,890 × 10名 = 548,900 円
 旅行会社手数料 1,080 × 1式 = 1,080 円
 タクシー 4,440 × 1式 = 4,440 円(岡山駅⇄岡山市役所)
 お土産代 3,888 × 1式 = 3,888 円(西宮市、高松市、岡山市)
 旅費総額 558,308 円

※6日の宿泊代が1人当たりの上限13,300円を超えていたため、超過分(計9,600円)は自己負担とした。